

# 経済・金融 フラッシュ

## 貿易統計 14年2月 ～高水準の貿易赤字が続く

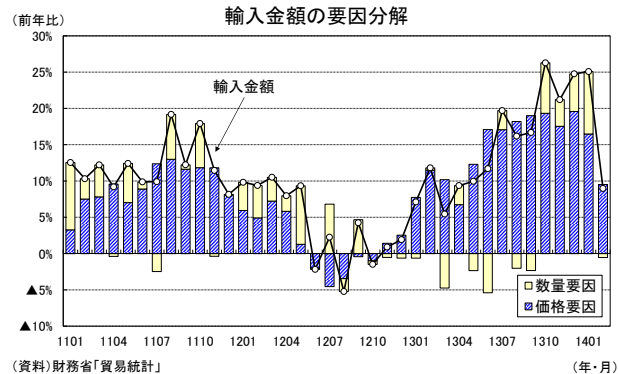
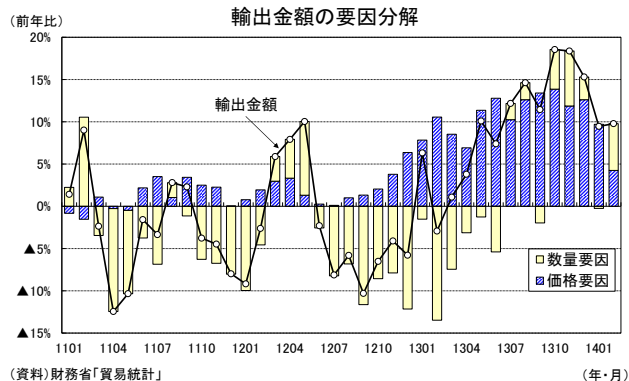
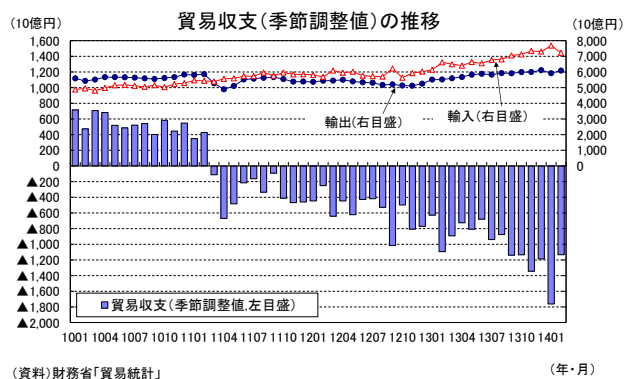
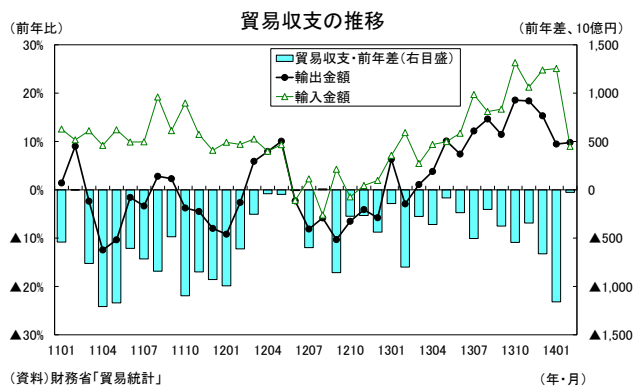
経済研究部 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. 輸入の伸びが急低下

財務省が3月19日に公表した貿易統計によると、14年2月の貿易収支は▲8,003億円の赤字となり、赤字幅は市場予想（QUICK集計：▲6,000億円、当社予想は▲6,114億円）を上回った。輸出が前月とほぼ同じ伸び（1月：前年比9.5%→2月：同9.8%）となる一方、輸入の伸びが大きく低下（1月：前年比25.1%→2月：同9.0%）したため、前年同月に比した貿易収支の悪化幅は前月から大きく縮小した。

輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比5.4%（1月：同▲0.2%）、輸出価格が前年比4.2%（1月：同9.7%）、輸入の内訳は、輸入数量が前年比▲0.5%（1月：同8.0%）、輸入価格が前年比9.6%（1月：同15.9%）であった。



季節調整済の貿易収支は▲11,332億円の赤字となり、1月の▲17,630億円から赤字幅が大きく縮

小した。輸出が前月比 2.8% (1 月：同▲3.2%) と 2 ヶ月ぶりの増加、輸入が前月比▲6.0% (1 月：同 5.2%) と 2 ヶ月ぶりの減少となった。ただし、1、2 月の貿易赤字を平均すると▲17.4 兆円 (季節調整済・年率換算値) となり、13 年 10-12 月期の▲14.7 兆円を上回る。貿易赤字が基調として縮小し始めたと判断するのは早計だ。

## 2. アジア新興国向けの輸出が低調

2 月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比▲1.0% (1 月：同 6.3%)、EU 向けが前年比 8.2% (1 月：同 5.5%)、アジア向けが前年比 5.0% (1 月：同▲2.0%) となった。

季節調整値 (当研究所による試算値) では、米国向けが前月比▲7.8% (1 月：同 14.2%)、EU 向けが前月比▲3.6% (1 月：同 1.7%)、アジア向けが前月比 3.1% (1 月：同 1.4%) であった。

米国向け、EU 向けが大きく低下したが、14 年 1、2 月の平均を 13 年 10-12 月期と比べると、米国向けが 1.7%、EU 向けが 0.4% 高くなっており、基調としては底堅い動きを続けていると判断される。

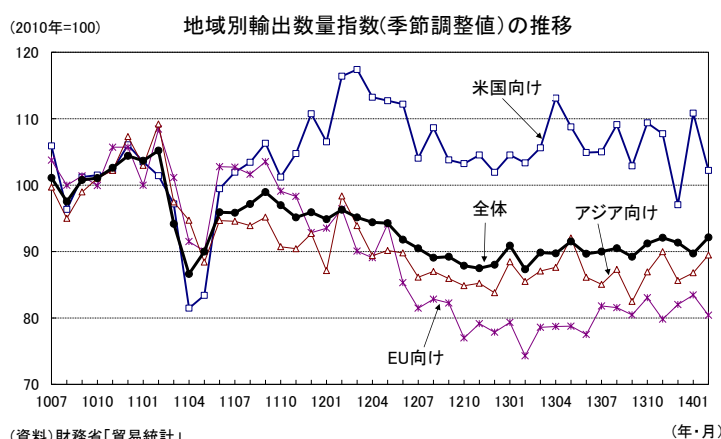
一方、アジア向けの輸出は中国向けが持ち直しているものの、中国以外の新興国向けが景気低迷や政治的混乱の影響から低調な動きを続けている。

2 月の輸入数量指数 (季節調整値) は前月比▲1.3% (1 月：同 1.2%) の低下となったが、1、2 月の平均は 13 年 10-12 月期よりも 0.5% 高い水準となっている。消費税率引き上げ前の駆け込み需要の影響もあり、輸入は底堅さを維持している。

13 年 10-12 月期の GDP 統計では外需寄与度が前期比▲0.5% と大幅なマイナスとなったが、14 年 1-3 月期も輸入の伸びが輸出の伸びを上回ることにより、外需が引き続き成長率の押し下げ要因となる可能性が高い。

## 3. 2 月の経常収支 (季節調整値) は赤字継続の公算

貿易赤字の拡大を主因として 14 年 1 月の経常収支は原数値で▲15,890 億円、季節調整値で▲5,883 億円の赤字となった。2 月の経常収支は貿易赤字 (季節調整値) が大きく縮小したことにより、原数値では 5 ヶ月ぶりの黒字となるものの、季節調整値では 2 ヶ月連続の赤字となることが見込まれる。現時点では 2 月の経常収支 (季節調整値) は▲1,000 億円程度の赤字を予想している。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。